

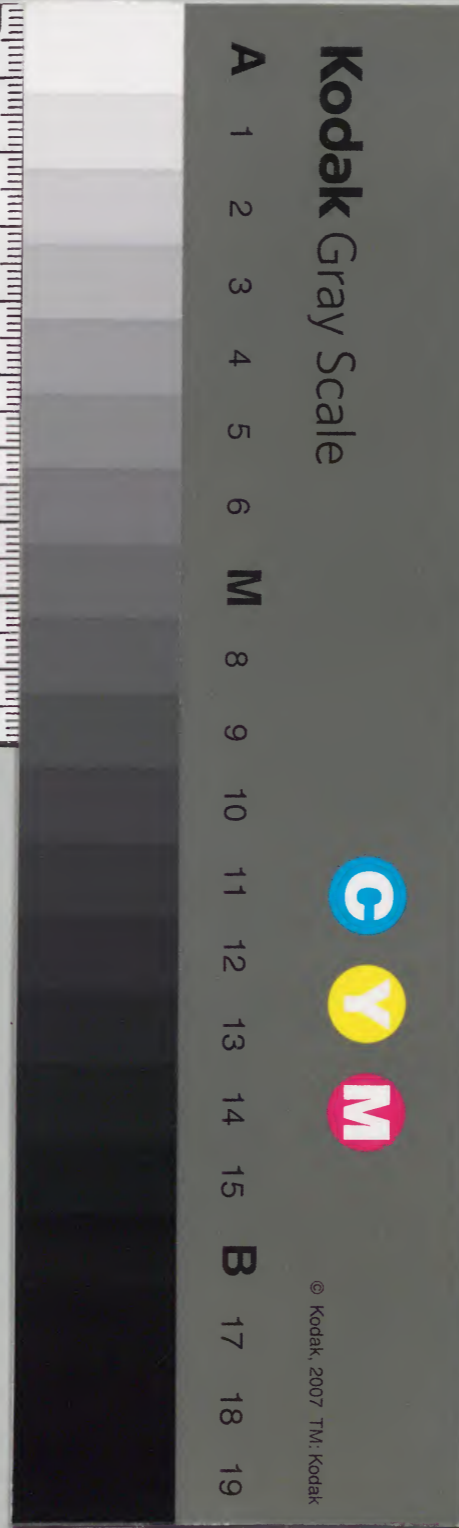
藤樹草

人倫并異名
十五

				和書門類
一〇冊	一三架	一三七函	四三六三號	

庫文内			
二〇函	一三架	一三七函	和書類

内閣文庫	
番號	和 43363
冊數	10 (7)
函號	202 180



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

藻樞草卷第十又目錄

淺草文庫

人倫并異名部

人一

我二

獨三

誰四

汝五

友六

使七

媒八

守九

男十

女十一
付し女

夫婦十二

父母十三

子十四

兄弟十五

親族十六

童十七

乳母十八

賤十九
付し賤

高人二十

盜人二十一

獵師二十二

塗二十三

遊女二十四

鬼僕二十五

春文二十六

中宮二十七

春文二十八

教院二十九

台三十

國母三十一

親王三十二

皇子三十三

執柄三十四

大臣三十五

將軍三十六

乙弼三十七

納言三十八

民部卿三十九

宰相四十

三位四十一

四位四十二

五位四十三

六位四十四

羽林四十五

中少將四十六

藻樞草

弁四十七 大夫四十 内膳人四十九 隼人五十 主簿五十

左衛大将五十二 左と右を中少将五十三

左右衛門五十四 左右兵衛五十五 侍從五十六 朝臣五十七

國司五十八 侍五十九 武士六十 稻納人六十一 百姓六十二

國柄六十 番近六十 抄人六十 鉦名六十

藤原草一巻第十又

人倫并異名部

○人一

神人ひまんのこしとまらり 是と神仙也

とよ宮人其又とよのまにせり何のり色とよまらりくはれま也左のまやと

ちもや人八雲内院こくら 八雲内院こくらとまらり又あつ物よまらり

り八雲内院おまらり の人こくらよまらりもとまらりみん八十段人の

道のまらりとの多也みん八十段人のやまらり人こくらははたはの時なりつ

の宮お幸成候時をたぬ一人戸のり何まらりともまらり勢のり八十段と

りまらり海上也とやめり一はらひて後ま山志終のうらの海上

人の心は... 他人に彼もあつて...
わが心は... 他人に彼もあつて...
わが心は... 他人に彼もあつて...

一海軍

か車の... 海軍の...
か車の... 海軍の...
か車の... 海軍の...

一乃より... 海軍の...
乃より... 海軍の...
乃より... 海軍の...

一これ... 海軍の...
これ... 海軍の...
これ... 海軍の...

人の... 海軍の...
人の... 海軍の...
人の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

一す... 海軍の...
す... 海軍の...
す... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

又... 海軍の...
又... 海軍の...
又... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

又... 海軍の...
又... 海軍の...
又... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

○我

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...
海軍の... 海軍の...

まのわつ方をとくし うめーのりか 道 うれ道くわんし

あふし いってんよと 一とを 何故よと云

ひ りてんよと 我ゆり 何故よと云

考 是て推 わ 男と云ともりら 考 是建て古

まの まのとのの の まのとのの の まのとのの

い いづらの事と 我 我と云 と と云 候 候と云 と と云 候 候と云

し しと云 も も云 や や云 あ あ云 ぬ ぬ云

も も云 も も云 り り云 候 候と云 と と云 候 候と云

わ わ云 せ せ云 じ じ云 世 世云 口 口云

れ れ云 の の云 り り云 候 候と云

○ 獨 三 獨者 むと り り云 祿 祿云 わ わ云 建 建云 ち ち云 候 候と云

○ 誰 四 誰 誰云

ぢ ぢ云 の の云 神 神云 へ へ云 ん ん云 お お云 と と云 し し云 候 候と云

一 一云 す す云 ら ら云 り り云 そ そ云 ん ん云 の の云 色 色云 志 志云 人 人云 お お云 せ せ云 ん ん云 多 多云 り

世 世云 た た云 れ れ云 の の云 色 色云 志 志云 人 人云 お お云 せ せ云 ん ん云 多 多云 り

と と云 の の云 初 初云 也 也云 又 又云 一 一云 と と云 候 候と云

ら ら云 へ へ云 候 候と云 と と云 候 候と云

あ あ云 の の云 色 色云 志 志云 人 人云 お お云 せ せ云 ん ん云 多 多云 り

○ 女 五 女 女云

ぢ ぢ云 ん ん云 ち ち云 ら ら云 く く云 但 但云 又 又云 王 王云 建 建云 と と云 候 候と云

あ あ云 ら ら云 せ せ云 人 人云 の の云 力 力云 の の云 建 建云 と と云 候 候と云

殿守やど

源氏守治あつたりけり氷のき

こりあ

垣

賊人 けりあ

しらのれ

宮本

神田

うらの橋守年

宇治

南守松

お坂

みれ関

古は是橋渡り撲をて是柄と船富士のあり

つり守

関のまを書接て向とくさ

久波

とりて善波男波とりてお波の

とく

又す戸とあり

やろれ

山

野

ハ不ア用也

の心

人なれかりつむ

て

ハ深牙

ら

峰依と可用

野守

防人

小井

とくし海

一

一

○男 十 雄 同之

りりせこ女男せよ毒一よけさお見えよく我

一よ妻人よあしれお万癒所人妻人の人けさ

さてもきぬ物とりぬさ万わつ物とたのひあせ

と人けさおひぬあせりしひけぬ智ひけさ

と張つさ妻毒ぬらぬ妻とあめてむし毒とりよとり

つみあつくとむもり又云梯さりあせひのぬのあ

ひ合也あせくれつさ妻毒ゆけさのトおのくししさる

かまればあさしつさあせうのけ

まやのけさ人つよのぬあせさああせわつ

ひあせあひびとなきあせ

主人ぬや主 わつさあせわつさあせ

野中清秋あせのさ乃依元皮河中也あせ

とらぬやとさあせむとさあせぬん野中のさあせ

ああらりあせさかうきもあせとらぬやとさあせ

とらぬやとさあせとらぬやとさあせ

とらぬやとさあせとらぬやとさあせ

とらぬやとさあせとらぬやとさあせ

とらぬやとさあせとらぬやとさあせ

とらぬやとさあせとらぬやとさあせ

とらぬやとさあせとらぬやとさあせ

現也海一 里乃一 村や里やかし 此わらへんや ぢさあ一 〇れ

子のまのしめめのりこえよつろ 多て 田うるや物さ 人志ふ一

さくろ井ハそかへあきけり 〇持てゆ人一 〇ふこのこりさ 〇世よちりあうぬねこつたりる連

ひあてしこ 菜子 志れふもをりら 〇も子とふまて

しつりてしつこも人ととわ 〇はあまこよあしすこ連と 〇ふと是をれさかあこよあしす

つこのゆ未をたのむとれやの神よまうせんとれやの神下野のり也 〇とれたと恵のま

ろえんれ一 好又物とよりままたささふふ一 又わらわつがく 小頼めとふむ

よまふ一 つくのり一 八雲の後よ物とらとあつ物よふ水あまのつ 又てうこよりのこ連を廉子や淡路国

土記に蘇神と皇女年秋八月天皇淡川の嶋に菟獵の時河上小大廉うしひま けりすかろらんて天皇は忠詔回答善曰我是日向国の徳縣此群牛之角あ

る廉の皮を煮たり而年雄不与仕尚以莫忘天恩仍命長髪髪真之也 〇あて

て子 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

とるこ 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

よめとまのふ袖つるれこまひの子こ 子持河 〇あてれよりよとてこのまれま

子山 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま 〇あてれよりよとてこのまれま

新編 萬葉集 下巻

子とねのふ る又をてかして さひわかり 稚く日記あり

りちてきん ことれた ちね つろく 玉のきり た

こ 源氏生ける 七世乃孫小逢 漢名帝時末年十五幸觀畏既肇二

人天台山を茶と湯よ入所を小逢
て飢よのう心時抱と見侍を食利得力て山若を一里計の山仙女よ合てま
婦と成て半半のりる畢然せ旧甲をぬたう々る仙女道とく一をそく人
一畢半半のりるこよよあよ七世のまこころとて

○兄弟 十五 付伯林父も親族のう

つ ちね 技 兄やあつ建も才と 技 下つ枝ととつみ

兄のり いと り 妹と り いと り いと り いと

一 妹が り いと ねく いと 山小本さら いと ね いと

り いと り いと り いと り いと り いと

と いと 山 いと ね いと り いと り いと

○親族 十六 族

ひ いと の いと ゆ いと と いと ね いと 親類也

ひ いと の いと ゆ いと と いと ね いと 親類也

○童 十七

と いと ね いと り いと たい いと き いと の いと

と いと ね いと り いと たい いと き いと の いと

と いと ね いと り いと たい いと き いと の いと

と いと ね いと り いと たい いと き いと の いと

うとともあり又うあひゆり
 まひしめともりり
 又むすあふりよはるれいあふり
 卒のりろもろともゆるれを八尺も也
 童のるくさくさのひくはあふり
 のうとひよはんいぬえ
 東の院の上巻の中にもこのみあり源氏

○乳母 十八

めれと 天蓋よりと乳母格羽あきあてせきのきと他人れ乳
 母 せちのふく又ちのるれめ
 はりあめをきりのめめと

ふゆとゆとともとり
 先八巻の心後不知○百くさう
 八十より入てたひりんちゆ

ちりさ 君を必抄ふ敏延りなりゆあく時主服巻未してはくつひと
 後之墨澤をん祝のすもしてそく建やくすもろめとむハ炭りやくと
 りとねとけくつげ乳胎兼之不ね差元又すもろめの衣ををりき尺又た
 る神妙く又秀ハゆるもろふれ物ねんもとむくとつア何よ付でわつや
 ひつとてやとすもろめとつげたらんも無失元又祝のすもろめいすも
 てつとろもいせ元も松のりふはなれりう建
 とやとといりんもあかり下五り建ともい
 物さるさうのちと
 めんもとらや源氏

○襦 十九 付下女奴

てーのうととーのともあふり
 又この上二もねく字せく
 一のあき

てーのうととーのともあふり
 帯とろもて巻るうとふてまきとろを後ぬの和井たれをいやき物ともい
 るりあ祝ともふ不て推さり又くりせいとむとろつハつくつとむ

一の海さ
 うすまうぬる也方ちつたす
 ひとくへつとむひて
 布のつよようきくたて

一の神人
 山の衣とせよまろつとくけてま
 一の神人
 一の衣とせよまろつとくけてま

○春文 サハ

くろの宮 あつみ文 又あみの宮 あつみ 春の宮 あつみ

○中宮 北七

あつみの宮 八重内院よりあつみの宮中宮よりくろの宮のよりあり又あつみの中宮と云ふ

○秋文 サハ

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

○斎院 サ九

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

○春 サ

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

○國母 サ一

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

○親王 サ二

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

あつみの宮 秋宮と云仁三皇廿五年秋宮教を以て改むし人皆あつみの宮と云ふ

西平のそねくうりつふせさうつふえおれおせりかのみさ日くひさ
あつるゆく井のうれ千せしやちよおきとそりさらんは二首歌王とよあ
て親王と作園とす

○皇子 廿三

ひーま乃んこ
源成云治の八まどひーまの宮とより是聖の中
是男女入道官作といふことつふは初づらく八代以後

○執柄 廿四

寔れこ
源氏おより良家の子之良家
とら移改い下の上臈の家也 世れ中の一乃とそろ

移改用白の家とよみえはたは乃る地若き一れ人と左大臣とよみ 源成

○大臣 廿五

うけりひく 乃階 ぢがぬ志 見えさ山

れとく ぢがぬ志 ぢがぬ志 ぢがぬ志

さいせれ大臣 まくりん いらの人とよれと大臣

○將軍 廿六

大樹 つ下のれいのむすあおりてとくけてきとくうくうとそり
の月

○公卿 廿七

ぢがぬ志 源成よこ

納言 廿八

○民部卿 廿九

民乃宮 ぢがぬ志

○宰相 卅十

源成よこ

わくろのけりさ 後拾遺草

○三位 四十一

のくろお まろのくろ井

○四位 四十二

志井志 推よふくろく ひろき兒此袖 四位以上 志入志 の官也

○又位 四十三

あきの衣 あきの衣と此 のまわくても 六位の人ぬろ

○六位 四十四

かろり乃袖 あとま見えとろろろも 佐山

よとよ六おれ筋とまろとや 源氏

○羽林 四十五

もひのまやし

○中少将 四十六

すけたり 源氏

○弁 四十七

七星 七弁 七弁ふつりささくろや左志大弁左志中弁左右少へん中少同指一

○大夫 四十八

まろち君 五人 ちと人 五人 源氏

○内蔵 四十九

お伴の所好子と云物あり大原より伴氏二流より不領と打替と持て所火
と云物と云もす新と云是を肉裏の火焼玉と云ふより続興と云るりの尸
く云るり云一のたぐ火と云あり

○左右兵衛 五十五

うと死と云へ云は 惣承符やれおし

○侍従 五十六

まむー ねも人

○朝臣 五十七

あそをくり乃あうちくものあう かね人

あそ いりた乃あう

○國司 五十八

みあやせり あつたえ

考へ帝の御名ありされともはこれ
とるは國司と云る也新捕を臣司が
夫て更勤よあうこのおとけわれやうりつと云

○侍 五十九

まきふらい ねり 侍の字は割とりの死と云

○武士 六十

まげくあ ○そのくぬのちあつとくうふここのう
るよありまたたし侍あすの志のそ まのふあ

たそうち人 やんまむ まげくあの子けあ
むと泳たけさり づさあ

ゆさげえ 若まを りまをー人 勲功人武士やと云るの千万のやく
あさりと云しあまをとりて云れ

またげとそおりよ 五

○稻納人 六十一

ひこく人 蒙唐人と ひこく人のまねのま ひこく

ひこく人 ひこく 物 ひこく 物 ひこく 物 ひこく

ひこく人 ひこく 物 ひこく 物 ひこく 物 ひこく

○拙人 六十五

拙人 一此またのうらや 山人のあ

てふれれ 一海たくと 一くさし 一くさ

くさし 一のうら本 くまのうらりのこして

くさし 美況ありうれ三泰 一のわき本 くまのうらりのこして

くさし くさし 一乃乃作かふもと

らてすそし くさし 一山 くさし 一たて

一本 一本 山 一本

一本 一本 山 一本 一本 一本

○鉅名 六十六

うか うか くらや くらや 太刀乃や 太刀乃や

のち のち

藤極草 藤極草 卷才十五

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Handwritten text in the upper right section of the page.

Handwritten text in the middle right section of the page.

Handwritten text in the lower right section of the page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

The left page of the document, which is mostly blank with some faint, illegible markings and a large, irregular stain.

